

府中市史編さんだより

創刊号 平成28年(2016年)3月25日



府中の歴史を見守ってきた大國魂神社の大ケヤキ

新市史の編さんに期待するもの

府中市長 高野 律 雄



市民皆様におかれましては、日頃より本市の行政運営に対しまして、ご理解・ご協力を賜っておりますことに、心より感謝申し上げます。

本市は平成26年に市制施行60周年を迎え、その記念事業として、50年ぶりに新たな市史の編さんに取り組む運びとなり、これまで協議会において市史編さんの基本構想や編集方針を策定してまいりました。平成27年度より事業が本格的に始動し、「市史編さんだより」を発刊するなど、情報発信をしながら10年間をおおよそその目途として完成に向け進めてまいります。

府中市はここ50年間で都市化の波が押し寄せ人口が急増し、農地の減少とともに、まちは大きく変遷してまいりました。実際、私の幼少時には家の前に引込み線があって、砂利を運ぶ貨車と、それを引くディーゼル機関車が毎日来ているのが日常の光景であり、近くの用水路で

はドジョウやフナを追いかけて遊んだものですが、今ではいずれも目にすることがなくなりました。農地は宅地へ、工場は大型マンションへと姿を変えています。

一方、昭和50年以降の膨大な遺跡発掘調査により、古代から近代までの多くのことが明らかになり、全国でも稀な成果であると高い評価をいただいております。さらに、自然、文化財、コミュニティなどにおいて、市内にはまだまだ古き良きレガシーが残っているのも事実で、今こそ新たな市史を編さんし、次世代へのメッセージにしたいと思っております。

市史は市民が、そして市が、過去を振り返り、未来を展望するときに拠って成り立つ基盤でございます。新たな市史の全編の刊行計画は平成35年度までの長期間に及びますが、市民皆様との協働はもちろん、市内にある大学や市内在住の研究者にも総動員いただき、すばらしい市史を編さんしていきたいと思っておりますので、皆様の変わらぬご理解・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

新しい市史を編さんするにあたって

府中市史編さん審議会会長 坂 浩 秀 一



「府中市史の編さん」事業が開始されました。以前、市制施行 10 周年を記念して『府中市史』上・下(1968・'74)が発行され、市民をはじめ多くの皆さんに親しまれ、版を重ねてきました。

このたび、市制 60 周年を迎えたのを機会に半世紀ぶりに、市民の要望に応じて新しい市史の編さんが着手されました。

「府中」は、武蔵国(東京都・埼玉県と神奈川県の一部)の政治・経済の中心地として古代に国府が設置され、交通の要として発展してきました。国衙(国の役所)が置かれた府中は、行政の中心地であり、まさに「府」の「中」(中心)の地として、古代から中世に引継がれてきました。近世以降、政治の中心は江戸東京に移りましたが、多摩の中核地としての歩みを続けてきました。

府中の地は、古来、多摩川の清流と緑豊かな平坦な台地に恵まれた自然環境のもと、旧石器時代から現代にいたる生活の息吹が歴史の痕跡として残されています。先の「市史」の発行の後、多数の資料が発掘され、多くの史料の存在も知られて研究が進んできました。

新しい「市史」は、これらの知見を総集して

「府中人」の過去の姿を具体的に理解し、現在そして未来の「府中市民」にとって「府中の歴史」を知って頂くきっかけを提供したいと願っています。地域に残された遺産は、その地の共有の歴史遺産であり、文化遺産として伝えていくことが必要です。それらは有形・無形の文化財として残されています。

古文書や記録などの文献史料、地上に伝えられている有形・無形の民俗資料、地下から発掘される物質(考古)資料、さらに過去と現在の自然環境の状態など、府中の歴史を物語る史料・資料は豊富に残されています。

半世紀以前には明らかでなかった「国衙(庁)」の跡が発掘され、さらに国府の設置より古い「国司館」跡や上円下方墳の熊野神社古墳が確認されるなど、全国的に大きな話題を提供した府中市遺跡調査会の 40 年にわたる成果など、新しい市史にとって注目の研究が盛られることとなります。

市民の皆さんにとって、親しまれる「新しい市史」の刊行に向って関係者一同、大いに努力を重ねてまいります。よろしくご支援とご協力をお願い申し上げます。

※ 立正大学名誉教授・府中市文化財保護審議会委員・
府中市遺跡調査会調査団長

最近の話題から

ここでは、市史の編さんに関する最近の話題について紹介します。

今回紹介するのは、今年 2 月 27 日に開催された「府中市遺跡調査会 40 周年記念事業 発掘でわかった昔の府中」(府中グリーンプラザ 2 階 けやきホール)です。府中市の発掘調査といえば、武蔵国府の調査を思い浮かべますが、国府のあった奈良・平安時代ばかりでなく、実は旧石器時代から現代まで、幅広い時代の調査が行われ、様々な品々が出土しています。発表では、こうした調査の方法と成果について、ご来場の市民の皆様映像やディスカッションによるご紹介をしました。

この 40 年にわたる調査で得られた資料が、

今回の市史編さんでも大きな役割を担おうとしているのです。



「発掘でわかった昔の府中」開催風景

市史編さんの活動記録

平成 26 年度

4 月 1 日 文化スポーツ部ふるさと文化財課で市史編さん事業に着手
 7 月 8 日 第 1 回府中市市史編さん協議会
 8 月 20 日 第 2 回府中市市史編さん協議会
 10 月 6 日 第 3 回府中市市史編さん協議会
 11 月 14 日 第 4 回府中市市史編さん協議会
 1 月 「府中市市史編さん方針」の策定

12 月 15 日 近現代・旧陸軍燃料廠防空壕調査
 1 月 15 日 第 2 回府中市市史編さん審議会
 2 月 5 日～ 近世・古文書調査
 28 日 中世・善明寺調査／安養寺調査
 3 月 25 日 第 3 回府中市市史編さん審議会

平成 27 年度

4 月 1 日 文化スポーツ部ふるさと文化財課に市史編さん担当を設置
 6 月 29 日 第 1 回府中市市史編さん審議会
 10 月 1 日～ 近世・古文書調査
 8 日 第 1 回府中市市史編集委員会
 12 月 10 日～ 古代・文献史料採録調査



第 1 回府中市市史編さん審議会

市史編さんコラム

「武蔵府中郷土かるた」

武蔵府中郷土かるたは、今から 40 年あまり前の昭和 48 年（1973 年）に作られました。前回の市史編さんの成果をいかして、府中の歴史や市内の史跡、自然に親しんでいただけるように、また子どもたちの郷土学習の教材として使えるように、工夫されています。かるたの読み札は市民から募集して選ばれた作品で、絵札は世界的にも有名な絵本画家の赤羽末吉画伯に描いていただきました。

郷土かるたは、毎年市内の小中学校 3 年生のみなさんに配布しています。現在大人になった人の中には懐しく思われる方もいらっしゃるかと思います。また、かるたにゆかりのある場所には「かるためぐり標識」が立てられ、「郷土かるためぐり」などのイベントや、歴史散策の目印として親しまれています。例えば「い」の札は、

「いちばんはじめに武蔵の国府」ですが、これは今から約 1300 年前に武蔵国の国府（国ごとに置かれた古代の役所）にちなみます。

ふるさと府中歴史館（府中市役所東側）の 1 階展示室にある「デジタル郷土かるた」は、この武蔵府中郷土かるたを素材にしたもので、タッチパネルで遊びながら、府中の歴史や史跡について学ぶことができます。

ぜひご来館いただき、親子で、お子様同士で、子ども時代に郷土かるたに触れた方も、郷土かるたをご存じなかった方も、楽しんでみてください。



武蔵府中郷土かるた

これまでの調査では、次の皆様にご協力をいただきました。ありがとうございました。（五十音順・敬称略）

飯島 渉、市川千秋、市川閲子、市川紀子、井上 翔、井上正望、上村正裕、恒松 衛、内藤方夫、内藤和良、中村憲司、藤田佳希、森憧太郎

安養寺、大國魂神社、小田原市立図書館、葛飾区郷土と天文の博物館、上染屋不動、航空自衛隊府中基地、善明寺、館林市教育委員会、多摩市教育委員会、千代田区立日比谷図書館、帝京大学、東京外国語大学、東郷寺、福岡市博物館、公益財団法人府中文化振興財団、山口県県史編さん室

府中市史編さんだより 創刊号 平成 28 年（2016 年）3 月 25 日
 編集・発行 府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課市史編さん担当
 〒 183 - 0023 東京都府中市宮町 3 丁目 1 番地 ふるさと府中歴史館 TEL 042 - 335 - 4376